





【実践事例（14）】

（石巻市立青葉中学校）



被災地訪問での学びを生かした復興・防災マップづくりの取組

被災地訪問等で学びから、復興・防災マップづくりに取り組むなど、防災を我が事として考える3年間を通じた系統的な防災教育を教育課程に位置付けている。

防災教育の内容（1学年・総合的な学習の時間）

時数	内容	
2	<p>【防災講話】</p> <p>○「震災当時の青葉地区の様子」 講師：4地区町内会役員の方々</p> <p>東日本大震災で、自分たちが住む地域では、どのような被害があったのか、災害からどのように復興してきたかなどを、震災当時の状況をよく知る町内会の役員の方々から話を聞いた。</p>	
4	<p>【被災地訪問学習】</p> <p>○気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 講師：語り部ガイド</p> <p>語り部の説明や震災遺構の見学を通し、震災当時、気仙沼向洋高校があった地域の被災状況や津波の脅威を目の当たりにし、改めて、災害から命を守るために必要なことは何かを学んだ。</p>	
2	<p>【復興・防災マップづくり】</p> <p>○街歩きによる地域の状況把握 講師：コミュニティ・スクール委員</p> <p>東日本大震災当時、地域の状況はどうだったのか、どこまで津波が来たのかなど、震災当時の状況をよく知る方（コミュニティ・スクール委員）の案内で、街歩きを行った。また、復興過程の街の変化を知ることができた。</p>	
6	<p>○復興・防災マップづくり 講師：大学教授等</p> <p>街歩きで分かった震災当時の被害状況や、復興の様子、現在の命を守る施設や、危険と思われる場所、さらに、今後、津波をはじめとする災害から命を守るために、自分たちだけでなく、地域の方々にとっても必要な行動などを記載し、復興・防災マップに完成させた。</p> <p>この復興・防災マップづくりを通し、地域を愛し、今後の災害に備える意識の向上につながった。</p> <p>★「復興・防災マップづくり」は、東北大学災害科学国際研究所防災協働センターのHPを参照 http://drredu-collabo.sakura.ne.jp/mapping</p>	

防災教育の内容（2学年・総合的な学習の時間）

時数	内容	
4	<p>【被災地訪問学習】 ○石巻市震災遺構門脇小学校 講師：語り部ガイド</p> <p>語り部の説明や震災遺構の見学を通し、震災当時、石巻市門脇地域の被災状況や門脇小学校の津波からの避難行動や被害状況を学び、津波から命を守るために、自助・共助の視点での意識を一層高めた。</p>	
2	<p>【防災講話】 ○「我が家の地震対策」 講師：防災士（校区内の町内会長）</p> <p>・家庭の地震対策、震災時の避難所の様子について話を聞いた。 ・地震や災害が発生した際、「非常持ち出し袋」に何を入れて避難すればよいのかをグループごとに検討した。発災時の状況は様々なため、「寒い時期」、「暑い時期」を想定して、必要な持ち出し品を検討。限られた袋のスペースにどんなものを入れればよいのか、「選択」の連続である。話し合った結果は各学級の代表生徒が発表した。</p>	

防災教育の内容（3学年・総合的な学習の時間）

時数	内容	
2	<p>【防災講話】 ○「震災後の石巻での子どもの居場所づくりへの取組」 講師：NPO 法人代表（コミュニティ・スクール委員）</p> <p>講師は、震災当時の石巻と避難所の様子を振り返り、子どもたちの居場所を作ろうと、「石巻こども避難所クラブ」（後に、「にじいろクレヨン」と改称）を結成し、多くのボランティアとともに、子どもたちにレクリエーション活動の提供などを行っている。震災当時の課題から、子どもたちを笑顔にする取組の講話を通じ、地域に貢献する意識を高めた。</p>	